

新しきを訪ね 古きを知る

7/20 文学ミュージアムオープン

市川市は、江戸川のゆつたりとした流れと花と緑が織りなす自然環境の中で、万葉のむかしから現代に至るまで多くの文人墨客に愛され、文化と芸術の土壌が豊かに育まれてきました。

一こつした特長を広く伝えていこうと、市では平成17年から市川ゆかりの作家の活動や作品などを紹介する

「文学館構想」が立ち上がり、このたび、メディアパーク内の映像文化センターをリニューアルし、7月20日(土)に「文学ミュージアム」として開館。「文学」と「映像文化」と「地域活動」の3つを活動の柱とし、みなさんに文学、映像などに関する活動の場を提供する新たな文化交流の拠点となります。

幅広い分野の作家を紹介

このミュージアムでは、市川ゆかりの文学者はもちろん、評論家、児童文学者、劇作家など、さらには写真家、映像作家など、従来の文学館でイメージされる「文学」の範囲を超え、幅広い分野で活躍した作家や、ゆかりの文芸スポットなどを紹介していきます。

映像や写真を交えて体感



▲水木洋子の着物などは、水木洋子市民サポートが手入れをし、展示に備える

通常展示フロアでは、「映画」「演劇」「小説」「詩歌」「文芸」の5つのコーナーに分かれ、映像や写真を通して市川の文学や映像文化の魅力を知ることが出来ます。

映画と小説のコーナーでは、60インチのモニター画面で、画面にタッチしながら、水木洋子の全映画の資料や、永井荷風の日記「断腸亭日乗」の文章やそれにまつわる愛用品の数々を見ることが出来ます。その他、劇作家の井上ひさし、詩人

文学ミュージアム開館に寄せて

こまつ座代表 井上 麻矢さん

井上ひさしと舞台



井上 麻矢さん プロフィール

父は、仕事が多忙を極めた1967年から1987年を市川で過ごし、『手鎖心中』『松五郎の生活』『偽原始人』『吉里吉里人』など、数多くの作品を生み出しました。父は、舞台を作り出す劇作家としての仕事にこだわりを持っていました。舞台は、書く作家、演じる役者だけでなく、大道具衣裳、音響などさまざまな人の手で出来ています。父は『ひよっこりひよたん島』の時代から、色々な人が自分の得意分野を持ち寄って一つの何かを作っていくという、そのプロセスを愛していました。だからこそ、あんなに演劇に傾倒していったのだと思います。また、舞台はみんなで力を出し合って一つのものを作っている。人間も同じです。自分は独りで生きていくのではなく、自分自身で生きていく、若し役者さんの舞台を通じて伝えられたのだと思います。

常に新しいものを発信する 文学ミュージアム

新しいものを作る時は、必ず古いものを見直さないと新しいものは生まれません。演劇でいうと、若い役者さんの起用や、新しい演出方法の活用により今の時代の波に乗せるなど、常に新しいものを取り入れて発信しています。今回オープンする文学ミュージアムも、タッチパネルや動画などを取り入れ、市川の文学を新しい手法で展示すると伺っています。古いものをただ展示しているだけでなく、古いものをきちんと見直すことで、何か今の世代に常に新しいものを発信していく、次の世代に受け継いでいく、劇場も文学ミュージアムもそういうワクワクする場所になるといいですね。どうにかして、動かないようなものにするのではなく、常に色々なものが動いている風通しのいい場所になることを市民の人々としても期待しています。

力を注いだ 「よみっこ運動」

父は、20年間生活をした市川に特別な思いを持っており、そして、自分が愛したこの市川に、何か自分の足跡を残したいと願っていました。その思いを子どもたちに伝えるため、読書を通じて子どもたちと大人が交流を深め、社会貢献をしようという地域運動「よみっこ運動」を2007年に始めました。父はよみっこの活動をとても大切にしていました。原稿の締め切りが迫り、周りが「よみっこはお休みしては」と進言したこともありましたが、

2F

通常展示フロア:
映画・演劇・小説・詩歌・文芸
映画・演劇・小説・詩歌・文芸に区分し、文学の街いちかわの魅力を展示品・写真・映像を交え、紹介。
映画と小説のコーナーでは、画面をタッチして操作。

グリーンスタジオ
講演会・演劇公演・コンサート・映画上映・朗読会が行える。260人収容可。

ベルホール
舞台が新設され、講演会・演劇公演・コンサート・映画上映・朗読会が行える。46人収容可。

企画展示室
市川ゆかりの文学や映像文化に関する企画展や、親しみやすい展示会などを行う。

映像メディア編集室
映像編集機器があり、映像や画像の編集が行える。個人への貸し出しも可。

アナウンズブース
防音仕様で、カセットテープへのアナウンス録音が行える。※地下に音楽スタジオもあり。

文学研修室
文学ミュージアムの主催講座のほか、文学や映像文化に関する団体へも貸し出し。

資料室
市川ゆかりの文学や映像文化に関する資料の閲覧の他、複写・レファレンスなどに対応する。

3F

多彩な資料が揃う資料室
3階の資料室では、市川ゆかりの文学や映像文化に関する書籍や雑誌のほか、市民サポーターの協力で作成されたファイリング資料などを閲覧できます。

の宗左近、絵本作家の梶山俊夫らの映像や、写真家の星野道夫の作品などが、モニター画面でご覧になれます。

7月20日(土)〜10月14日(祝) 開館記念特別展

市川を代表する文豪 永井荷風

「断腸亭日乗」と「遺品」でたどる365日

文豪・永井荷風は昭和21年から34年までを市川で過ごし、市川を終焉の地としました。荷風の日記「断腸亭日乗」を、永井家に遺された荷風の遺品とともにたどり、荷風の生活とその人となりを紹介いたします。

「断腸亭日乗」は、大正6年から亡くなる前日の昭和34年4月29日まで、欠かさず書き続けた、日記文学の最高峰と評される作品です。そこには、作家活動、日々の暮らし、世相、当時の町並み、交友などが、ときに鋭い批評を添えて、またときに心とらぐイラストとともに書かれています。

本展では、これら「断腸亭日乗」の記述と、それに対応する「遺品」を結びつけながら紹介することにより、「断腸亭日乗」の魅力を伝えていきます。

なお、今回、荷風が間借りしたフランス文学者・小西茂也が書いた荷風に関するメモのほか、荷風の葬儀映像(高師八幡宮所蔵)を初めて展示します。

観覧料 一般400円、65歳以上および25名以上の団体3200円、高・大学生2000円、中学生以下無料、障害者手帳をお持ちの方と付き添いの方1名無料、エコポシットカード1枚で1名無料

特別展休館日 月曜日(9/16、9/23、10/14は開館)、7/31、9/17、9/24、9/27

▲永井荷風が使用した手帳と鉛筆

特別展開連イベント

川本三郎氏講演会 評論家「荷風をめぐる女性たち」
9月7日(土)午後2時 / グリーンスタジオ / 定員200人 / 申し込み8月6日(火)必着
宮崎博生氏講演会(高師八幡宮司)「父宮崎鴻東と荷風の交友」
8月7日(水) / 午後2時 / ベルホール / 定員46人 / 申し込み7月24日(水)必着

映画上映「瀧東綺譚」(1960年120分)
7月28日(日)午後2時 / グリーンスタジオ / 定員200人 / 申し込み7月17日(水)必着

ギャラリートーク
文学ミュージアム学芸員によるギャラリートーク
8月1日(木)午後2時 / 申し込み不要

※すべてのイベントは無料ですが、観覧券が必要です。

甲 ギャラリートーク以外の申し込みは、往復はがきに、イベント名参加人数(通で2人まで)・住所氏名電話番号を書き、文学ミュージアム(T2720015 鬼高1の1の4メディアパーク市川内)。

施設の利用方法が変わります

文学ミュージアムの開館に伴い、7月20日(土)から施設の利用方法が左記の通り変わります。グリーンスタジオ、ベルホールの空き状況は、市公式Webサイトの施設予約システム上から確認できます。詳しくは、お問い合わせください。

グリーンスタジオ、ベルホールは市外在住・在勤の方も利用可能に
今までは市内在住・在勤の方のみでしたが、今後は市外在住・在勤の方も利用することができます。ただし、申請開始期間は市内の方より1ヶ月遅い5ヶ月前からとなります。

グリーンスタジオ、ベルホールで入場料を徴収する事業が実施可能に
申請時に予算書の提出による審査があります。ただし、営利目的の事業は開催できません。

文学研修室の使用可能団体が変更
文学ミュージアムの設置目的により、文学や映像に関する事業を行う団体が利用できます。

☎ 32033334 映像文化センター
※月曜日休館